


▼広報 8月15日号

ひまわり
言語聴覚士の

ひとりごと



言語聴覚士は、発音不明瞭や吃音などの相談・評価・指導などを行う専門職です。


☎ ひまわり発達相談センター
☎047(451)2922

吃音(言葉がどもること) 編


吃音とは、言いたい言葉の音は頭に浮かんでいるのに、その音がスムーズに出ない状態のことを言います。例えば、「あ、あ、あのね」のように音を繰り返す、「あーあのね」のように音を伸ばす、「…っあのね」と詰まって音が出てこない等です。そして、吃音が目立つ時期と目立たない時期を繰り返す「波」があります。原因ははっきりしていませんが、大人のしつけや愛情不足で吃音になるわけではありません。緊張する場面ではどもらずに、リラックスした場面でもなるなど、場面により変化することがあると言われています。

「ゆっくり言ってごらん」等話し方の

アドバイスはせず、お子さんが安心してコミュニケーションを楽しめるような環境を作ることが重要です。また、まねしたり言い直しをさせないことも大切です。周囲の大人が吃音を正しく理解し対応することが、吃音の悪化を防ぐことにもつながります。




バックナンバー
(解説付き)
を順次掲載中▼



▼広報 12月15日

ひまわり
保育士の

ひとりごと



☎ ひまわり発達相談センター
☎047(451)2922

育てにくさを感じる子育て 編

子育て中は、「この年齢ならこれができる」といった基準が意識されやすく、子どものできないことに目を向けてしまい不安になりがちです。

その背景の1つに、できて当然のことはほめずに、できない時に注意をすることで子どもに覚えてもらうという子育てが一般的に浸透していることがあげられます。


子どもが、何度注意してもなかなかできるようにならない場合は、「話を聞くことが苦手」、「言葉の意図を読み取ることが苦手」など、発達上の配慮が必要なのかもしれません。

苦手なものがある子どもは、同じことを何度注意してもどうすればよいのか学ぶことが難しく、失敗を繰り返してしまい、親子ともども自信を無くしてしまいがちです。

そのような時は言葉だけで伝えるのでなく、絵カードなどで「視覚的に理解」できるようにしたり、「おもちゃを片付けて」ではなく、「車のおもちゃを緑の箱に入れて」などやって欲しいことを具体的に知らせたりすることで、できるようになることがあります。

また、子どもが上手にできた時には「ほめる」、「認める」ことで自信をつけることも大事です。

周囲の大人は、「育てにくさを感じる子育て」をしている人がいることを理解し、やさしく見守ったり、そっと手助けをしたりして応援してあげてください。



バックナンバー
(解説付き)
を順次掲載中

